

トマス・コール『タオルミーナから見たエトナ山』1840年代

曲目解説

Sicilienne

シシリエンヌ

Gabriel Fauré（1845–1924）　ガブリエル・フォーレ

曲目解説

Sicilienne シシリエンヌ

Sicilienne, Op. 78 ／ シシリエンヌ 作品78

Gabriel Fauré（1845–1924） ガブリエル・フォーレ

作曲	1893年（劇の音楽として）、1898年にチェロとピアノのための曲として出版
原曲の編成	チェロとピアノ（ほかに、管弦楽版もある）
調・拍子	ト短調（中間部はハ短調）・8分の6拍子・Allegretto molto moderato（ほどよく、ゆったりと）
この楽譜	Meg Noah 編 フルートとピアノ（IMSLP、CC0）の旋律から入力し、Hamelle 1898年初版（チェロとピアノ）と照合

作曲者

ガブリエル・フォーレは、南フランスのパミエに生まれました。9歳でパリの宗教音楽の学校に入り、そこでサン＝サーンスにピアノを習って、生涯の友となりました。長くマドレーヌ教会のオルガニストを務め、のちにパリ音楽院の院長となって、ラヴェルらを育てています。

派手さよりも、上品で控えめな美しさを大切にした作曲家で、移ろう和音の色合いが持ち味です。代表作に『レクイエム』、歌曲『夢のあとに』、『パヴァーヌ』、『エレジー』などがあります。

曲の成り立ち

1893年、モリエールの喜劇『町人貴族』の上演のための音楽として書かれました。ところが上演は実現せず、この曲は眠ったままになりました。

1898年、フォーレはこれをチェロとピアノの曲に直し、作品78として出版しました。
イギリスのチェロ奏者・作曲家、ウィリアム・ヘンリー・スクワイアに献呈されています。

同じ1898年、ロンドンでのメーテルリンクの劇『ペレアスとメリザンド』の上演に、
この曲が劇の音楽の一つとして使われました。管弦楽にしたのは、弟子のシャルル・ケクランです。のちに『ペレアスとメリザンド』の組曲（作品80）の第3曲となり、管弦楽の曲としてもよく知られています。

曲調と聴きどころ

シシリエンヌ（シチリアーナ）は、イタリアのシチリア島に由来するといわれる、
ゆったりした8分の6拍子の舞曲です。「タッ・タ・タ」と、付点のついた揺れるリズムが特徴で、
羊飼いの歌や、のどかな田園の情景に結びつけられてきました。

フォーレのシシリエンヌは、ピアノの静かな分散和音にのって、旋律がソから始まり、
ゆっくり上がっては下りてきます。短調ですが、暗く沈みすぎず、
懐かしさと上品な哀しみが混じった響きです。中間部では調が変わり、
高い音域で明るさと陰りが入れ替わります。

曲の流れ （小節番号は、この楽譜の小節番号）

小節	内容
1〜9	主題。ピアノの分散和音の上に、旋律がソ・シ♭・レ・ソと上がり、付点のリズムで下りてくる
10〜21	ピアノが旋律を受け持ち、笛は下で支える。主題をもう一度歌ったあと、ピアノだけの間奏
22〜32	新しい旋律。上へ上へと高まり、mf〜f の山を、短い句のくり返しで重ねる
33〜43	主題が戻る（ト短調）
44〜61	中間部（ハ短調）。高い音域から下りてくる新しい旋律。明るい響きと陰りが入れ替わる
62〜69	22〜32小節の旋律が戻り、ふたたび高まって静まる
70〜86	主題が戻り、結びへ。最後は低いレを長くのばして、静かに消えていく

音楽のしくみ （かんたんな音楽理論）

調　ト短調

ソを主音（中心の音）とする短調です。調号は♭が2つ（シとミ）。中間部（44〜61小節）は
♭が3つのハ短調に変わります。曲の途中で調が変わることを「転調」といい、
景色が変わったように聞こえます。

拍子　8分の6拍子

1小節に8分音符が6つ入りますが、数えるときは「付点4分音符×2」の2拍で感じます（イチ・ニ・サン、
ニ・ニ・サン）。シシリエンヌは、この2拍の中で付点のリズムが揺れる舞曲です。

付点のリズム

「♪.♬♪」（付点8分・16分・8分）のリズムが何度も出てきます。重くならないよう、
1拍目に少し重さを置き、あとは軽く流すと、舞曲らしい揺れが生まれます。

篠笛の楽譜と調について

　同じ曲を、全体の高さを同じ幅だけ上げ下げして書き直すことを「移調」といいます。
篠笛は1本ごとに高さが違うので、笛に合わせて調を選ぶと、無理のない指づかいで吹けます。チューナーの
「基準 A」は、ラの音を何ヘルツに合わせるかのことで、ふつうは 440Hz です。
笛に合わせて伴奏の基準を少し下げると、笛を無理にカらずに音程がそろいます。

楽譜	内容
標準の運指版	ト短調（原調）。運指は「一＝ド」として付けています。笛だけで吹くなら、何本調子の笛でも同じ指で吹けます（鳴る高さは笛によって変わります）。伴奏（A＝440Hz）と合わせるときは、一 がおよそドの笛（目安：八本調子前後）を使います。
六本調子版	六本調子（古典調）の笛のための楽譜です。ハ短調（原曲より完全4度上）、チューナーの基準A＝431Hz（全体を45セント低く）。実測した六本調子の笛で、×の運指やメリ・カリがいちばん少なく吹ける調を選び、音ごとのメリ・カリの量も書いています（笛によって前後します）。

藤舎名玄　2026